

様式5

SHD経食道心エコー図検査レポート

申請者氏名 ()

様式4中の症例番号	*	年 齢	**	性 別	M・ F
診 断 名	心房中隔欠損症			疾患分類	弁・心筋・ 先天性 ・その他
検 査 年 月 日	****/ **/ **	施 設 名	*****		
<p>経食道心エコー図検査所見</p> <p>心房中隔欠損症は二次孔型で、主に左右シャントを認めた。欠損孔は心房中隔の上方から大動脈側に位置し、単孔、やや縦長で、大きさは24 mm (0度) × 25 mm (30度) × 30 mm (45度) × 26 mm (90度) × 19 mm (135度)であった。Septal malalignmentは認めなかった。周囲縁 (rim) はそれぞれ、後壁 15 mm、大動脈壁 4 mm、下大静脈 19 mm、心房上壁 2 mm、冠静脈洞 19 mm、上大静脈 16 mm、肺静脈 22 mm、房室弁 26 mmであり、aortic / superior rim欠損であった。心房中隔径は57 mmで、中隔瘤は呈していなかった。</p> <p>肺静脈の走行など異常所見は認めなかった。</p> <p>軽度の三尖弁閉鎖不全症を生じていたが、TRPG 20 mmHgで肺高血圧症は認めなかった。</p>					
超 音 波 診 断	ASD (secundum, aortic / superior rim deficiency)、Mild TR				
<p>(手術所見)</p> <p>心房中隔欠損症は二次孔型で、上方に位置し、欠損孔の径は約30×20 mmであった。欠損孔は大動脈壁から心房上壁にかけて近接しており、カテーテル閉鎖術ではデバイスの留置が困難である可能性が示唆された。心房中隔欠損症は自己心膜で縫着し閉鎖術を行った。</p> <p>(経食道心エコー図検査所見と手術所見との対比)</p> <p>術前の経食道心エコー図で、心房中隔欠損症は欠損孔の最大径30 mmで、aortic / superior rim 欠損と診断していた。手術所見で、欠損孔の大きさや形態は経食道心エコー図3Dイメージとほぼ同等であり、周囲縁 (rim) も大動脈壁から心房上壁にかけて欠損しており、心エコー図所見と同様であった。</p>					
最 終 診 断	ASD (secundum, aortic / superior rim deficiency)				

裏面に病態を反映する心エコー図静止画を1～2枚貼付ください。画像からは個人情報情報を抹消し、画像裏面に申請者氏名を記入しはがれないように貼付すること。画像ファイルからペーストしていただいても結構です。レポートの質によっては認証医資格を認めないことがありますのでご注意ください。

[写真貼付欄]

